ハマナスヒラタハバチ

６月下旬～７月にハマナスなどバラ属の葉を糸で巻いたり，綴り合わせるイモムシ（幼虫）．体長は最大で18mm程度．体は黄緑色．頭部は茶色，時に暗い斑紋がある．イボ状の脚（あし）はない．

1990年台に入って発生が目立つようになった．庭などでときに多発し，食害が何年も続くと枝枯れが生ずることがある．

１．老齢幼虫，体長15mm．1990/7/20.

２．老齢幼虫の巣．1990/7/20.

３．雌成虫．1991/6/6.

４．卵，長さ1.5mm．1991/6/6.

５．連年食害木での枝枯れ．1992/7/.

１～５．

新得町の庭のハマナスで多発した個体群を撮影．

【学名】 *Pamphilius stramineipes*

【分類】 ハチ目（Hymenoptera），ハバチ亜目（Symphyta），ヒラタハバチ科（Pamphiliidae）

【分布】 北海道，樺太，南千島，ユーラシア．

【特徴】

成虫は体が黒く，黄色の斑紋がある．翅（はね）は透明．体長8～12mm．卵は緑色，長さ約1.5mm.

ヒラタハバチ科の幼虫は細長い円筒形，腹脚がなく，触角がヒゲ状，尾端の左右に１本ずつ突起（尾肢，びし）があるのが特徴．ハマナスヒラタハバチの幼虫は体長15～18mmに達する．頭部は小さな幼虫では褐色～暗褐色，成長すると黄褐色～褐色．体は白味がかった黄緑色，前胸背面の中央の硬皮板とその両側の硬皮板は黄褐色～暗褐色．小さな幼虫ではしばしば腹端が暗くなる．

北海道ではバラ属につくヒラタハバチとして他に *Pamphilius balteatus* が知られているが，幼虫の特徴は不明.

【生態】

宿主：バラ属（ハマナス，ヨーロッパハマナス，ノイバラ）

年１回発生．成虫は６月に出現．雌成虫は葉裏に卵を１個ずつ産む．幼虫は６月中旬から７月下旬に出現．若～中齢幼虫は葉の縁を筒状に巻いて巣を作るが，老齢幼虫は数枚の葉を束ねて巣を作る．成熟した幼虫は７月に土に潜り，秋までに前蛹となって越冬，翌春に蛹，次いで成虫になる．一部の個体は土壌中で長期休眠し２冬以上を過ごす.

【被害】

十勝新得町の庭のハマナスで1990～1992年に多発し，初めて日本に分布することがわかった．新得町では被害３年目に枝枯れが観察された．それ以降，道東や道央の各地でも観察されている，発生量は普通，それほど多くない.

【文献】

1988．Shinohara, A.　*Pamphilius stramineipes* (Hymenoptera, Pamphiliidae) and its close relatives.　Bull. natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A, 14：179-197.

1991．Shinohara, A., and H. Hara.　Occurrence of a leaf rollong sawfly *Pamphilius stramineipes* (Hymenoptera, Pamphiliidae) feeding on *Rosa rugosa* in Hokkaido.　Jpn. J. Ent., 59：734.

1993．Hara, H.　Life history of a leaf-rolling sawfly, *Pamphilius stramineipes* (Hymenoptera, Pamphiliidae), in Hokkaido.　Jpn. J. Ent., 61：293-302.

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ハマナスヒラタハバチ hirataha/hamanasu/kaisetu.htm

「文章」 原秀穂，北海道立林業試験場，1993/1/10-2001/1/27.

1yochu.JPG，1yochusu.JPG，1seichu.JPG，1tamago.JPG，1higai.JPG

「写真１～５」 原秀穂，北海道立林業試験場，1990-1992.

「写真個体群の種の同定」 篠原昭彦博士，国立科学博物館，1991.